

高志短歌俳句集



空^{から}
木^き
田^だ

著者略歴

埼玉県 秩父町に生れる

早稲田大学第一政経学部政治学科卒業

現住所；〒351-0114 和光市本町 31-8-407

TEL；(048) 464-1339

別冊^{かいせいぶんこ}類生文庫

1

高志短歌俳句集

平成十年九月十六日 発行

定価 千 円

著者 空木^{からきだ}田 高志^{たかし}

発行者 斎藤 誠

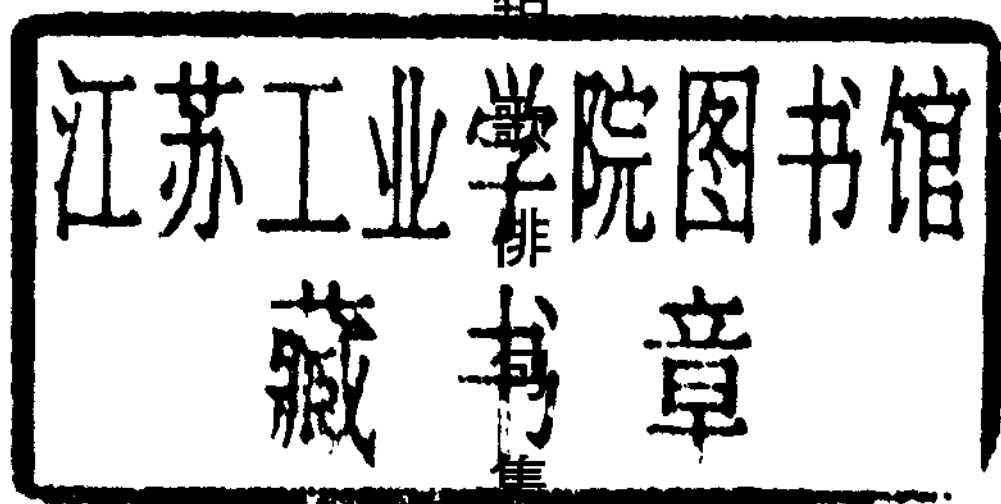
発行所 生活広報センター

和光市本町 31-16-807

TEL (048) 462-2000

© Takashi Karakida 1998

高
志
鉅



目次

高志短歌集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

高志俳句集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・135

俳句について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・345

季語「神の旅」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・359

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・375

高志短歌集

信濃	11
千曲	25
単独行	31
北（一）	35
北（二）	43
東	49

53

57

63

85

89

93

富士忍野	101
浅草三社	107
加賀金沢	111
奈良	121
京都	129

信

濃

桜守^{さくらもり}

静かに語る

夕月の

信濃の寺に 紅枝^{べし}垂^だれ散る

春楡^{はるにれ}の

高き梢も 花つけり

信濃夜^よ明^あくる 山の辺^への道

色付ける

リングを胸に 集^{つど}いける

乙女ら今宵 ハチロ一忌かな

一の瀬の

白樺林

残雪の

乗鞍遠く

李^{すもも}花咲く

犀川さいの

流れを止めし 大池に
雪山映えて 白鳥ら遊ぶ

薄紅うすべにの

雪に輝く 常念岳じょうねんを
見つつ明け行く 松本の朝

花びらの

松本城の 夕焼けに
雁帰り行き 影薄れ行く

茸干きのこす

奈良井の宿の 町外れ
お六櫛など 売る店のあり

柿の実の　たわわにみのり　色付ける

木曾谷の秋　初霜の朝

「農園のスターキング」を　描きしは

我が友の亡父ちち　その友も老ゆ

町並を　水の流れて　桜咲く

海野の宿の　遅き春かな

北国の　街道筋に　佇たたずめる

海野の里は　宿場町なり

信濃なる 杏あんずの里を 訪ねしも

杏花散り 空のみ青し

孫負いし 杏の里の 里人は

昨夜の風に 花失うせんと云う

唐松は 僅はつかに芽吹き 夕焼くる

八ヶ岳やの麓を おおい尽くせり

風花の 静かに舞える 旅の宿

木曽谷更けて 雪の降り積む